

広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム 派遣留学報告書

	記入日 平成 29 年 10 月 12 日			
留 学 先 大 学	ハンブルク大学 (国名:ドイツ)			
所 属 学 部 ・ 学 科 等 名	日本語学科 (法学部)			
在 籍 身 分	交換留学			
留 学 期 間	平成 28 年 10 月 1 日 ~ 平成 29 年 9 月 21 日			
1. 渡航について				
ビザについて	ビザの種類: 学生ビザ			
	ビザ申請先: Hamburg Welcome Center			
	取得方法, 提出書類: ハンブルク大学学生証明書、入学許可書、財政証明 (奨学金受給証明書)、100€			
	手続きに要した日数: 1 日			
そ の 他 必 要 な 事 前 手 続 き	寮費の送金			
出 国 年 月 日	平成 28 年 8 月 23 日			
経 路	関空→トルコ→ハンブルク			
現 地 で の 出 迎 え	<input type="checkbox"/> 有 (・大学関係者 ・その他) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	10月14日にガイダンス			
帰 国 年 月 日	平成 29 年 9 月 22 日			
経 路	ハンブルク→ヘルシンキ→関空			
2. 留学経費について				
所 要 経 費	総額	2,060,000	円	
	内 訳	渡航費	200,000	円
		保険料	260,000	円
		教科書代(学費)	80,000	円
		宿舍費	480,000	円
		食費	480,000	円
		その他 (研究活動 費)	300,000	円
(語学講座 費)	200,000	円		
(通信 費)	60,000	円		
3. 授業について				
2016 年 冬学期	10 月 1 日 ~	2 月 15 日		
2017 年 夏学期	4 月 1 日 ~	7 月 30 日		

年 学期	月 日 ~ 月 日
年 学期	月 日 ~ 月 日
授業の概要について (カリキュラム, プログラム等)	語学講座、法学部の講義、ゼミの聴講
単位互換希望の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 ※有の場合, 所属学部支援室へ提出の単位認定申請書類のコピーを添付すること
学術面に関する後輩へのアドバイス	語学講座はこまめにチェックし, 事前予約が必要
4. 生活等について	
(1) 留学先の住居について	
住居の種類	<input checked="" type="checkbox"/> 大学の寮 <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> その他 ()
住居の広さ	約 15 m ² 同居人の有無 <input type="checkbox"/> 有 (人) <input checked="" type="checkbox"/> 無
住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 電気 <input type="checkbox"/> ガス <input checked="" type="checkbox"/> 水道 <input type="checkbox"/> 給湯 <input checked="" type="checkbox"/> シャワー <input type="checkbox"/> 風呂 <input checked="" type="checkbox"/> 水洗便所 <input checked="" type="checkbox"/> 暖房 <input type="checkbox"/> 冷房 <input type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input type="checkbox"/> 固定電話 <input checked="" type="checkbox"/> インターネット <input type="checkbox"/> その他 ()
住居費	1ヶ月当たり 345€ (現地通貨) 約 40,000 円
住居を決定した方法	<input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の紹介 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者 <input type="checkbox"/> その他 ()
留学先での住居全般に関するアドバイス	窃盗が頻発した。共同室(キッチン)は常に施錠すること
(2) 医療について	
1日以上入院を要する 病気・怪我等を	<input type="checkbox"/> した <input checked="" type="checkbox"/> しなかった
入院した場合	により 日入院
留学に当たり保険を	<input checked="" type="checkbox"/> 掛けた <input type="checkbox"/> 掛けなかった
掛けた場合	<input checked="" type="checkbox"/> 日本 <input checked="" type="checkbox"/> 留学先国 <input type="checkbox"/> その他 ()
掛け金は	年間 480,000 円 補償額 死亡 円, 入院1日 円 その他 ()
留学前後での予防接種 の必要の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
有の場合, その種類, 回数, 費用, 受けた医療機関名	
日常的な健康について 不安が	<input type="checkbox"/> あった <input checked="" type="checkbox"/> なかった あった場合その理由:
留学先国の医療事情 (日本と比較して)	細分化されているため、慣れないと不便を感じる
留学先での健康管理, 衛生面について特に注意すべきこと	特になし

(3) 危険を感じた地域, 状況		
G20 のデモ、中心地		
(4) その他生活等に関して参考となる事項		
ハンブルクには日本人コミュニティが多数あるので、そこでつながりを作っておくと困ったときに安心できる。		
5. 帰国後の進路について		
卒業予定年月	平成 30年 9月	(当初の卒業予定年月 平成 30年 9月)
卒業が遅れる見込みの場合, その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他 (具体的に)	
現在の状況および今後の予定・進路等	研究職	
就職活動や留学前の単位取得, 教育実習等についての工夫	特になし	
6. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等		
書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
手紙・メールのドイツ語	三修社	ドイツ語のメールを書く際に参考になった
Eメールのドイツ語	白水社	同上
7. 自由記述 (後輩へのアドバイス等)		
<p>治安は比較的良いが、それでも日本ほどではない。日本人女性を狙う外国人は非常に多く、危機意識を持つことが大切。</p> <p>ゲーテは高かったが、留学開始前に通ったことで授業前にある程度、語学能力を磨くことができた。</p>		

学習の概要に関するレポート

広島大学の HUSA プログラムにて、協定校のハンブルク大学に一年間交換留学を行った。交換留学ということもあり、語学習得のための様々なコースが用意されていた。語学コースで取得した単位は大学で単位互換することが可能であり、他にも受入学科の日本語学科で開講されている講義も受講可能であった。ハンブルク大学は総合大学であり、他の学部の講義の単利履修や聴講も可能であった。

私は博士課程後期に在籍しており、単位取得の必要性はなく、また語学習得も留学の目的の一つではあったが、博士學位請求論文作成のための調査、研究、資料収集等も行った。ハンブルク大学では、法学部の Florian Jassberger 教授の下、資料収集等の研究活動を行った。また、同大学の Katrin Brettfeld 先生の講義、Dirk Enzmann 教授の講義及びゼミ、Florian Jassberger 教授の講義を聴講させていただき、ドイツの刑事政策についての見聞を広めた。Florian Jassberger 教授の下では国際刑法を専攻する院生、客員教授が研究を行っており、彼らと定期的に昼食を共にし、意見交換を行った。ハンブルク大学所属の Peter Wetzels 教授の紹介で、高齢者犯罪について研究されている Gießen 大学の Arthur Kreuzer 教授と連絡をとることができ、ご指導を賜ることができた。

さらに、同大学が開講する語学コースを受講し、ドイツ語能力の研鑽に努めた。タンデムを利用し、ドイツ人学生との会話練習も行った。他には、同大学日本語学部に学生サポーターという形で、講義に参加し、ドイツ人学生との意見交換等を行った。ハンブルクの裁判所を訪れ、裁判傍聴を行い、裁判所職員の方にインタビュー調査も行った。また、ハンブルクの小売店で働く知人に万引きの対処についてのインタビュー調査も行った。

ハンブルク大学での留学は日本語学科があることから、日本語を勉強している学生が比較的多く、タンデムパートナーを見つけるのが簡単であった。また、受入担当教員の三輪先生は非常に優しく、留学中何度もお世話になった。ハンブルク大学に留学している日本人の学生も多く、彼らと情報共有することで、大変快適な生活、研究を行うことができた。

本留学は広島大学とハンブルク大学間の交換留学ではあるものの、私は研究留学として渡独したため、生活費以外に研究費がかかり出費も決して少なくなかった。JASSO 奨学金を受給させて頂けたおかげでハンブルクでの研究生生活は充実し、有意義なものとなった。

広島大学及び JASSO には心より感謝している。ただ一点、改善して頂きたいところもある。保険についてだが、留学前に大学で東京海上日動の保険に加入したが、ハンブルク大学での在籍条件としてドイツの保険に加入というのがあり、また別に保険に加入することになった。ドイツの保険の保障内容には歯医者での治療も含まれており、日本のものより保障範囲は広がった。もちろん、渡航から保険加入までの期間は含まれていないのだが、留学の間ずっと日本の保険に加入する必要性は無いと考える。保険料も決して安くはないので、改善を求める。

生活の概要に関するレポート

もともと香川大学の学部生の時に、語学研修という形で一ヵ月ほど渡独しており、また本留学開始の一ヵ月前に渡独しゲーテという語学学校に通ったため、生活や日常会話についての心配はなかった。それでも、大学や大学院レベルでの会話は初めての経験で、自身の未熟さを痛感することになった。ただ、ハンブルク大学が開講している語学コースを受講し、上達することはできた。また、一年という長い期間の海外生活は初めてであり、ドイツで生活を送ることで、文献等には載っていないドイツの事情や雰囲気というものを肌で感じることもできた。主に、ハンブルクで得た友人・知人はハンブルク大学日本語学科の学生あるいは法学部の院生・研究者であるが、大学が開講している **Hochschulsport** に参加し、趣味であるバスケットボールを通じて、様々な所属・国籍の友人を得ることができた。

ハンブルク大学に留学している日本人学生、ハンブルクで生活している日本人は意外と多く、日本食レストランもあり、日本の食材も容易に手に入れることができる。日本人のコミュニティも存在し、ホームシック等にはなりにくい土地・環境だと言えるだろう。ただし、冬季の日照時間の短さについては注意が必要である。日本とは比べ物にならないほど短く、一日中暗い印象を受けた。ハンブルクはドイツの北部に位置するが、それほど寒くなく、また乾燥もさほど気にならないのだが、この暗さだけは非常に辛かった。時期的にはクリスマスマーケットがあるので、テロ等の危険性はあるのだが、なるべく外に出て、人と交流した方がよい。冬休みになると帰省する学生も多く、学校にも人があまりいない状態になり、また年末年始は家族で過ごすという家庭が多いため、ドイツ人学生とも会えない状態になる。この時には、いっそハンブルクより南方への旅行をすることをおすすめする。

治安に関してだが、もちろん日本ほどは良くない。私の友人(日本人の男性2人)はスリと強盗に遭った。私も寮の共同キッチンの冷蔵庫に保管していた食材を二回盗られた。G20の時にはハンブルクで大きなデモが行われ、多くの店が破壊され、車が燃やされ、警察官とデモ隊が衝突し、けが人が多く出た。デモが行われていた場所では、レンガやガラス瓶が飛び交い非常に危険であった。他には、大晦日には花火が解禁され、街の至る所で爆竹やロケット花火が打ち上げられるのだが、人を目掛けて打ち上げる者もあり、大晦日の外出は危険である。

ハンブルクは気さくに話しかけてくる人も多く、方言もさほど強くなく、非常に過ごしやすい地域だと言える。大都市ではないが、中心地に主要な機関が集まっており、交通機関も発達しており、世界の住みたい街TOP10にランクインしており、その名に恥じない素晴らしい街だと言える。



